

# 都市再生整備計画事業 モニタリングシート

## 美瑛中心市街地区

平成29年2月

北海道美瑛町

様式3 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道		市町村名	美瑛町		地区名	美瑛中心市街地区		面積	190.4 ha		
交付期間	平成26～30年度		事後評価実施予定時期	平成30年度	モニタリング実施時期	平成28年度		交付対象事業費	1,910百万円	国費率	40%	
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施済み、実施中、実施予定の事業	基幹事業	事業名				事業進捗の状況(順調か、遅れているか)					
			提案事業	⑪【地域創造支援事業】 地域資源活用交流施設(郷土資料館活用) ⑫【地域創造支援事業】 丸山通り(無電柱化ー引込管路設置)				順調に進捗している。 (②、⑩は実施済み) (①、③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨は実施中)				
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	⑬【地域生活基盤施設】 公共イベント広場 ⑭【地域生活基盤施設】 美瑛駅西口公共駐車場				⑬H25年度に暫定的に実施した町単独事業による整備で一定の機能が確保出来ているため ⑭駅前既存駐車場で指標が達成できる見通しがたったため		中心市街地入込者数等の指標がH28時点で達成されていることから、指標への影響は生じない		
	新たに追加した事業	基幹事業	⑮【地域生活基盤施設】 本通り(ポケットスペース)				⑮中心市街地を周遊する観光客の滞在時間増加とサービス向上を図るため		指標の数値的な変更はないが、本事業の実施によって設定した指標の達成に大きな効果がある			
			提案事業									
交付期間の変更	当初	平成26年度～30年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	モニタリング	目標	総合所見		今後の対応方針		
	指標1	丸山通りの歩行者数	人/日	524	H24	580	H30	679	H27	あり ● なし	美瑛駅から約500mの街並みが整備されたことで丸山通り地区への周遊が進み、従前値に比べて約30%の伸び率を達成している。	引き続き丸山通り地区の空間整備とバリアフリー化を進め、継続して周遊が図られるよう都市機能向上に努める。
	指標2	中心市街地への入込者数	人/年	387,294	H24	426,000	H30	443,005	H27	あり ● なし	観光客の受け入れを可能とする施設の整備が進み、従前値に比べて約14%の伸び率を達成している。	増加した観光客とその滞在時間を活かし、購買力の向上に向けた更なる取り組みが必要である。
	指標3	地域交流センターの利用者数	人/年	12,761	H24	16,500	H30	58,467	H27	あり ● なし	新たなスタイルの拠点施設を整備し、本町の真の魅力の発信と地域交流が推進され、大幅な伸び率を達成している。	引き続き利用者に親しまれる施設の在り方を検討し、世代間交流が図られるよう取り組みを継続する。
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	モニタリング	目標	総合所見		今後の対応方針		
	その他の数値指標1											
	その他の数値指標2											
	その他の数値指標3											
4) 定性的な効果発現状況												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	指標達成状況等について庁舎内組織による検討を実施 ⇒平成28年7月28日、平成28年8月9日(計2回)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した				● 計画事業の進捗による定量化指標値の推移を注視し、整備された施設の有効活用について引き続き庁舎内組織にて協議検討する。			
	住民参加プロセス	住み良いまち美瑛をみんなでつくる条例に基づく「まちづくり委員会」にて、指標の達成状況等について中間評価を実施 ⇒平成28年6月21日、平成28年9月27日(計2回)			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない				● 定量化指標のモニタリング値は良好だが、引き続き指標値を上げられるような取り組みが求められているため、整備された施設の在り方や活用方法について住民意見を取り入れる体制を強化する。			
	持続的なまちづくり体制の構築	継続的に企画委員会、まちづくり委員会において協議し、新規整備事業およびソフト事業の模索、展開を図るための体制を構築			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない				● 住み良いまち美瑛をみんなでつくる条例に基づく「まちづくり委員会」を中心に、事業終了後も継続的にまちづくり活動を行える体制の構築を目指す。			
6) モニタリングの所見	総合所見	順調	● 定量化指標のモニタリング値から目標値の達成が見込まれたことから、これまでの事業は順調に実施されていると推察される。しかし、中心市街地の入込者数増加から駐車場不足等の新たな課題が生じており、計画事業の一部を見直す必要がある。				今後の事業の改善点		継続事業については、引き続き計画に基づき事業を推進し、事業完了年度における定量化指標の達成を目指す。今後事業に着手する予定であった「公共イベント広場」「美瑛駅前広場」「美瑛駅西口公共駐車場」については、事業着手後の外的要因の変化から、「美瑛駅前広場」は整備構想の見直しを行い、他2事業は本計画から削除するよう計画変更を行う。			

# 美瑛中心市街地区 都市再生整備計画

## 中間評価について

実施期間：平成28年6月21日～9月27日

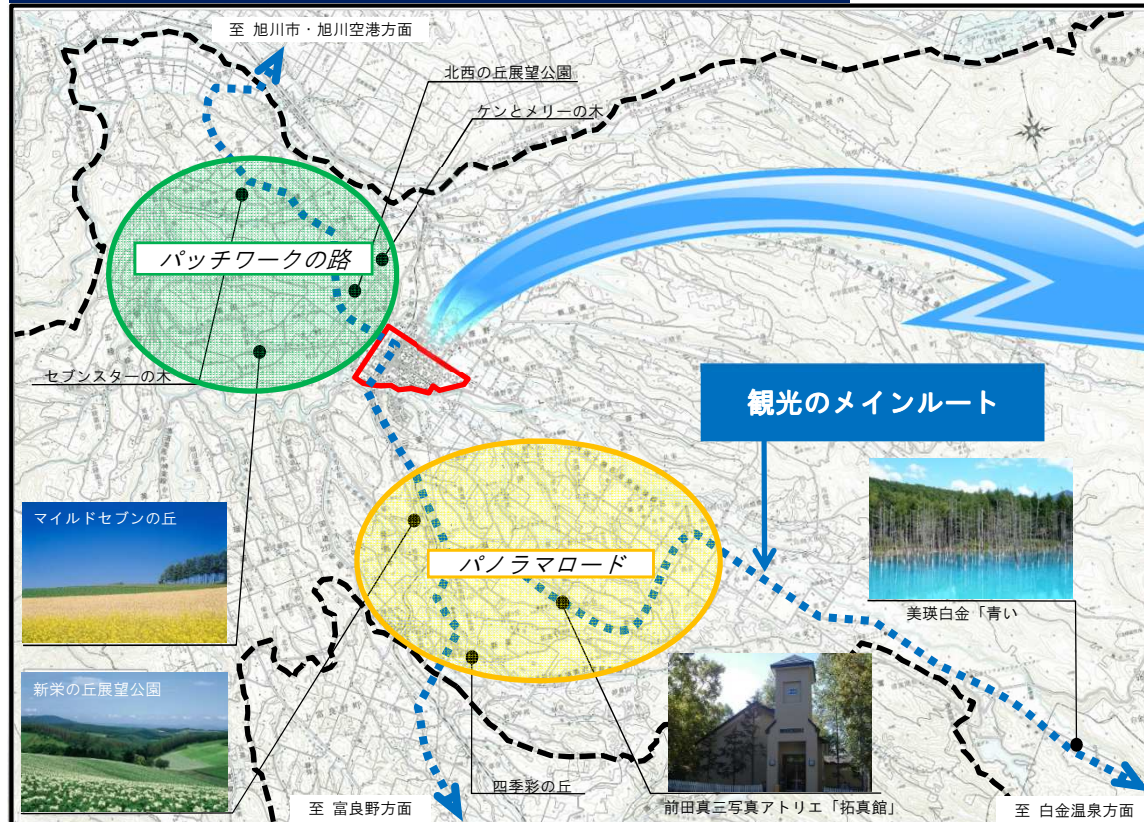
【北海道上川郡美瑛町】

# 美瑛町の中心市街地区が抱える課題

美瑛町には年間160万人を超える観光客が訪れていますが、美しい農村景観を目的とした郊外農村部の周遊がメインとなっています。この流れに中心市街地を加えるための取り組みとして、H17年度に宿泊交流施設「ふれあい館ラユニール」、H18年度に「道の駅びえいー丘のくら」等の集客施設を市街地に整備することによって中心市街地の活性化に取り組み、一定の成果を上げています。

しかし、観光客の多くは良質な街並みが整備された本通り地区周辺に留まり、都市機能が不十分な丸山通り地区への周遊が進まず、滞在時間も伸びないことで効果的な活性化が図られていない現状にあり、これが喫緊の課題となっています。

## 美瑛町の観光動線と中心市街地活性化における相関図



本通り地区



道の駅「びえい丘のくら」



# 美瑛中心市街地区のまちづくりの目標

## 中心市街地の課題

- 丸山通りの都市機能が不十分で観光客の周遊が進まない
- 中心市街地への集客を可能とする施設が整備されていない
- 町民や観光客の活動領域を広げる多様性のある拠点が整備されていない



大目標：美しい丘のまちで次代においても安心して暮らしができる活気のある市街地を再生する。

## 小目標

丸山通り地区への誘客を促進し、交流人口の増加による中心市街地全体の活性化を図るための良質な空間を整備する。

中心市街地への誘客を可能とする施設整備を推進し、地域コミュニティに負荷の少ない環境を整備する。

新たなスタイルの拠点施設を整備し、本町の真の魅力の発信と地域交流の推進を図る。

## 目標を定量化するための指標

指標1：丸山通りの歩行者数（人/日）

従前値（H24）  
524人/日



目標値（H30）  
580人/日

指標2：中心市街地への入込者数（人/年）

従前値（H24）  
387,294人/年



目標値（H30）  
426,000人/年

指標3：地域交流センターの利用者数（人/日）

従前値（H24）  
12,761人/年



目標値（H30）  
16,500人/年

# 都市再生整備計画に基づいて実施している事業

H26年度より計画する15事業のうち12事業に着手し、H27年度末までに「丸山通りポケットスペース」「地域交流センター」「地域資源活用交流施設」の3事業を完了しており、H28年度は丸山通りを中心とした9事業を実施しています。

■基幹事業  
地域生活基盤施設(駐車場)  
美瑛駅西口公共駐車場  
【H30着手予定】  
※中間評価結果に基づき、  
事業取り止め(後述)

■基幹事業  
地域生活基盤施設(広場)  
本通りポケットスペース  
【H28完了】

■基幹事業  
地域生活基盤施設(広場)  
美瑛駅前広場  
【H30着手予定】  
※中間評価結果に基づき、  
事業見直し(後述)

■基幹事業  
地域生活基盤施設(情報板)  
中心市街地案内サイン  
【H30完了予定】

■基幹事業  
高質空間形成施設(緑化施設等)  
丸山通り照明施設  
丸山通りストリートファニチャー  
丸山通りカラー舗装  
丸山通り歩道舗装  
【H30完了予定】

■基幹事業  
高質空間形成施設(電線類地下埋設施設)  
丸山通り無電柱化  
【H30完了予定】

■基幹事業  
道路  
丸山通り歩道拡幅  
【H30完了予定】

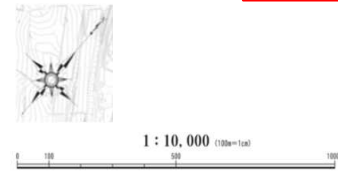
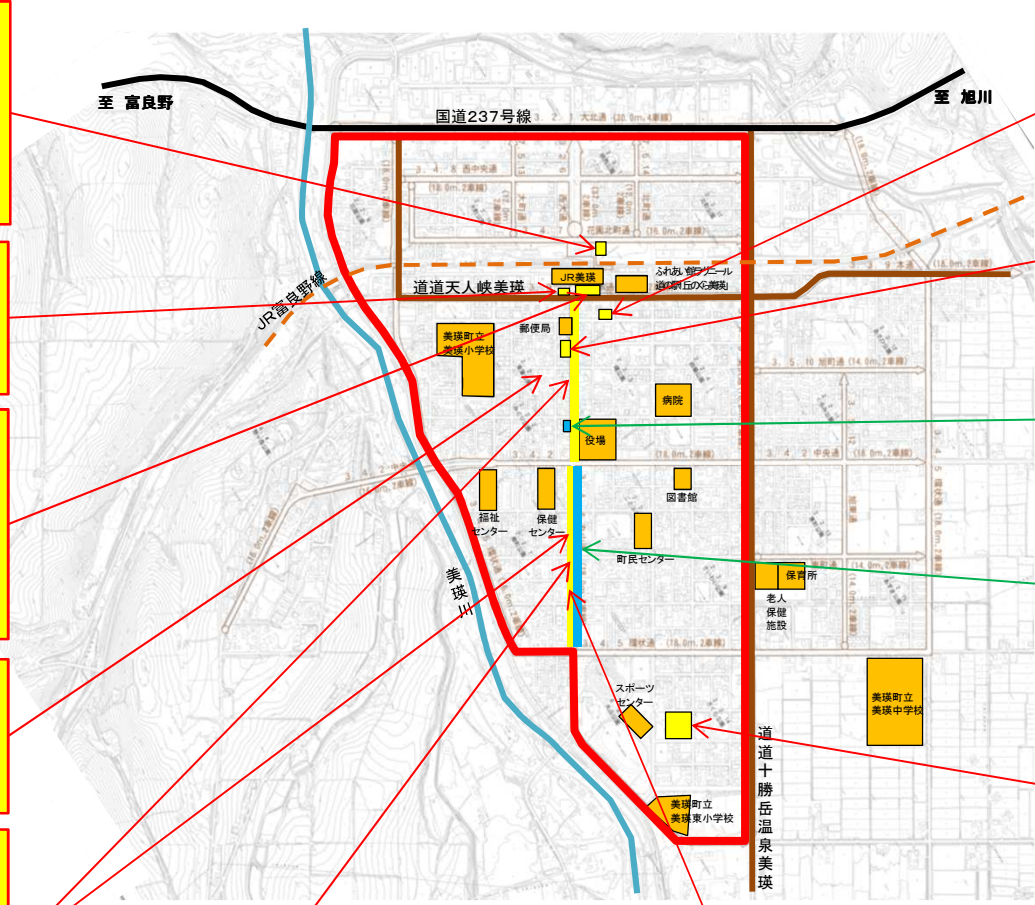
■基幹事業  
既存建造物活用事業(高次都市施設)  
地域交流センター  
【H27完了】

■基幹事業  
地域生活基盤施設(広場)  
丸山通りポケットスペース  
【H27完了】

□提案事業  
地域創造支援事業  
地域資源活用交流施設  
【H27完了】

□提案事業  
地域創造支援事業  
丸山通り無電柱化一引込管路設置  
【H30完了予定】

■基幹事業  
地域生活基盤施設(広場)  
公共イベント広場  
【H29着手予定】  
※中間評価結果に基づき、  
事業取り止め(後述)



凡 例	
■ (Yellow)	■ 基幹事業 (基幹事業 1)
□ (Blue)	□ 提案事業
○ (White)	○ 関連事業
□ (Red outline)	都市再生整備計画区域

# 中間年度までの事業の進捗状況（完了事業）

丸山通り地区

整備前 (H25.6月)



丸山通りポケットスペース

整備前 (H25.6月)



地域交流センター

整備前 (H25.12月)



地域資源活用交流施設

整備前 (H26.5月)



↓ ~ 整備後 ~ ↓

丸山通り地区 整備後 (H27.6月)



丸山通りポケットスペース 整備後 (H28.6月)



丘のまち交流館「ビ・エール」整備後外観 (H27.6月)



丘のまち郷土学館「美宙」整備後外観 (H28.5月)



「日本で最も美しい村」連合世界大会パレード (H27.6月)



※丸山通り地区はH30まで継続整備中

丸山通りポケットスペース 整備後 (H28.6月)



子どもスペース活用「親子遊びの広場」(H27.8月)



学習スペース活用「星を見る会」(H28.7月)



## 中間年度における指標の達成状況と今後の見込み

本計画では、既存ストックを活用した拠点施設を新たに設置し、それらを結ぶ動線となる「丸山通り」を良質な空間とすることで、交流人口と滞在時間の増加がもたらす相乗効果を定量化するための指標を設定しており、事業着手から3年目に入るH28年3月には、全ての指標が目標値に達しています。

今後も引き続き事業を推進し、整備された施設の効果的な活用を図るため、ハードとソフトを組み合わせた継続的な取り組みを進めています。

目標を定量的に評価するための指標		従前値	目標値	中間値	達成状況
<b>指標1：丸山通りの歩行者数（人/日）</b>					
定義	交通量調査による丸山通りの日当たり歩行者数	524 人/日 (H24)	580 人/日 (H30)	679 人/日 (H27)	○ 達成見込み
目標との 関連性	丸山通りの良質な空間形成及び拠点施設の整備によって、本通地区からの誘客による交流人口及び滞在時間の増加を歩行者数の伸び率から検証する				
<b>指標2：中心市街地への入込者数（人/年）</b>					
定義	市街地拠点施設の年間利用者数	387,294 人/年 (H24)	426,000 人/年 (H30)	443,005 人/年 (H27)	○ 達成見込み
目標との 関連性	中心市街地の整備により創出される新たな交流人口を市街地拠点施設（道の駅・ラヴニール・四季の情報館）の利用者数から検証する				
<b>指標3：地域交流センターの利用者数（人/日）</b>					
定義	商店街コミュニティ施設の年間利用者数	12,761 人/年 (H24)	16,500 人/年 (H30)	58,467 人/年 (H27)	○ 達成見込み
目標との 関連性	既存地域交流施設等の利用者数から算出する従前値に対し、既存建造物活用による新たな施設（ピ・エール）が生み出す交流人口を加えたものを指標とする				



## 計画当初（H25）からの課題の変化について

区分	事業実施前の課題	中間評価時点で達成されたこと	解決すべき残された課題
丸山通り地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>■丸山通り地区の都市機能が不十分</li> <li>□良質な街並みが整備されていないため、本通り地区からの周遊が進まない</li> <li>□バリアフリーに対応した易しい歩道空間が整備されていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●丸山通り地区への周遊が進み、従前の歩行者数に比べて約30%の伸び率を達成した</li> <li>○美瑛駅から美瑛町役場付近までの約500mの良質な街並み空間が整備され、本通り地区からの周遊が進んでいる</li> <li>○バリアフリーに対応した歩道整備を実施（関連事業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼増加した観光客の滞在時間を活かし、購買力の向上に向けた更なる取り組みが必要</li> <li>▽今後、丘のまち郷土学館「美宙」や沿線商店街の取り組みによる観光客の滞在時間増加を期待</li> <li>▽丸山通りのランドマークである役場庁舎「四季の塔」を、観光資源として積極的に活用する</li> </ul>
中心市街地全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中心市街地への集客を可能とする施設が未整備</li> <li>□周遊する観光客が休憩・交流できる施設が少ない</li> <li>□市街地の各施設を案内するサインの更なる整備が必要</li> <li>□美瑛駅から丸山通り地区へのアクセスが不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光客の受け入れを可能とする施設の整備が進み、従前の中心市街地入込者数に比べて約14%の伸び率を達成した</li> <li>○丸山通りと本通りにポケットスペースを整備し、周遊する観光客の滞在拠点が確保された</li> <li>○市街地の主要交差点に多言語化案内サインを追加した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼増加する観光車両の受け入れを可能とする駐車場の確保が必要</li> <li>▽当初計画の「美瑛駅前広場」事業では、駅前駐車場の一部を広場化する計画となっているため、駐車場不足がさらに深刻となる</li> <li>▽「公共イベント広場」事業を予定していたエリアに新たな公共施設の計画がある</li> </ul>
交流拠点となる施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>■町民や観光客の活動領域を広げる多様性のある交流拠点が未整備</li> <li>□町民や観光客が気軽に交流できる施設が未整備</li> <li>□美瑛町の文化や地域資源の情報を発信する施設が整備されていない</li> <li>□活用されていない既存施設が市街地に点在している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たなスタイルの拠点施設を整備し、本町の真の魅力の発信と地域交流が推進されている</li> <li>○町民や観光客による世代間交流が丘のまち交流館「ビ・エール」の整備によって推進されている</li> <li>○丘のまち郷土学館「美宙」が整備され、地域の文化・資源の情報発信が可能となった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼引き続き利用者に親しまれる施設の在り方を検討し、更なる交流が図られるよう取り組みを継続する</li> <li>▽整備された施設は現段階では有効に活用されており、利用者数も順調に伸びている。</li> <li>▽今後も継続して利用されるよう町内外への情報発信や新たな取り組みを進める必要がある</li> </ul>

## 都市再生整備計画の見直しの必要性（今後着手する事業）

事業名	当初計画内容と現在までの状況変化等	中間評価による見直し結果
公共イベント 広場	<p>○H25年度の当初計画段階においては、現在役場前の広場などを利用して行われている農産物の直売イベントや、大規模な催事にも対応できる広場の整備を計画していた。</p> <p>○状況変化として、①H25年度に町単独事業にて暫定的に行った防塵処理により一定の機能が確保されていること、②当初利用を想定していた直売イベント等は中心市街地に近い役場付近で開催する方が集客率を見込める等の意見があること、③現在新たな公共施設の候補地として検討されていることなどが上げられる。</p>	<p>○H25年度に暫定的に実施した町単独事業による整備で一定の機能が確保出来ているほか、建設が検討されている新たな公共施設の外構で計画事業の機能を十分補完できるため、都市再生整備計画事業から別途関連事業にて実施するよう計画変更を行う。</p>
美瑛駅前広場	<p>○H24年度の北大の調査研究成果の中で、増加する観光客に配慮したまちづくりを進める必要性の提言がされたことから、美瑛駅から丸山通りを正面に見て左側（シンボルツリー側）の駅前ロータリーを多目的な広場へ整備し、新しい駅前ロータリーを右側（こいやさん側）の駐車場を移転することで機能を確保することが当初計画の概要。</p> <p>○H25年度の計画段階より、①中心市街地への入込者の増加に伴い、大型バスの待機場所や観光車両の駐車場として駅前にある駐車場の必要性が高まっていること、②ロータリー形状の変更によって、交通量の増加が見込まれる裏通り町道（こいやさん、佐々木花屋さん側）の道路幅員等が確保されていないことから安全な通行に課題があること、③H28年度に「本通りポケットスペース」が整備されることで、観光客の休憩施設等の機能が補完されること、計画時から複数の状況が変化している。</p>	<p>○中心市街地への入込者数の増加に伴い、観光車両が大幅に増加しており、美瑛駅周辺の慢性的な駐車場不足を解決しなければ、現計画の実施は困難と思われる。</p> <p>○本通りポケットスペースの整備により観光客の休憩施設等の広場機能の一部が補完されるが、整備された丸山通りの景観を観光資源として有効に活用するため、タクシープール側へ移動する動線を整備することは急務。</p> <p>○外的要因の変化から当初計画を見直し、現状進められる段階的な整備を行なうため、美瑛駅舎から丸山通り地区への円滑な動線を整備するよう計画変更を行う。</p> <p>○なお、中心市街地の駐車場不足を解決し、段階的に「美瑛駅前広場構想」を実現するために必要な協議を関係機関と連携して進め、継続して中心市街地の都市機能の向上を図る取り組みを進める。</p>
美瑛駅西口 公共駐車場	<p>○H25年度の当初計画段階においては、現在役場前の広場などを利用して行われている農産物の直売イベントや、大規模な催事にも対応できる広場の整備を計画していた。</p> <p>○状況変化として、①H25年度に町単独事業にて暫定的に行った防塵処理により一定の機能が確保されていること、②当初利用を想定していた直売イベント等は中心市街地に近い役場付近で開催する方が集客率を見込める等の意見があること、③現在新たな公共施設の候補地として検討されていることなどが上げられる。</p>	<p>○本事業は上記「美瑛駅前広場」と関連する事業であり、同様の外的要因の変化から現段階では大規模な駅前広場の機能変更は難しいため、都市再生整備計画事業から削除するよう計画変更を行う。</p>